タイトル

つながる世界　つながる未来

実践場所	県	徳島県	実践者	川原　恵子
対　象	中学2年生	時間数	15時間	
担当教科	英語、2年担任	実践教科	総合的な学習の時間、道徳	
ねらい	①異文化を知ることを通して、多様性や違いを認め、尊重する態度を養う。 ②国際協力活動についての認識を深め、国際協力に対する興味関心を育てる。 ③世界が抱える課題に気付かせ、よりよい世界を構築しようとする意欲を養う。			

実践内容

回	プログラム	備　考
1-4	【共通点・相違点から想像しよう　エチオピアのくらし】 ・ｴﾁｵﾋﾟｱの子どもたちが行った「権利の熱気球」(人権についてのランキング)の結果と自分たちのものを比較し、ｴﾁｵﾋﾟｱの子どもたちの生活や考え方を想像する。	ワークシート 写真教材
5-6	【エチオピアの文化や自然、暮らしを知ろう】 ・写真や資料から、ｴﾁｵﾋﾟｱの文化や自然などについて知る。また、人々の暮らしについての理解を深める。	スライド 写真教材
7-8	【エチオピアの人々の暮らしの課題を考えよう】 ・ｴﾁｵﾋﾟｱの人々の生活をよりよくするためのプロジェクトを自分たちで考える。	資料 スライド 写真教材
9-10	【JICAについて知ろう】 ・青年海外協力隊OBの方の話を聞き、JICAや国際協力活動の意義や活動の実際について理解する。	ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰ スライド
11-12	【アフリカとのつながりを知ろう】 ・日本でなじみの深いモノの中から、アフリカから来ているモノを調べる。	ワークシート 地図帳
13-14	【より望ましい国際協力活動について考えよう】 ・自分たちが考えたプロジェクトを発表する。 ・青年海外協力隊隊員の方からのメッセージを読む。	ワークシート 資料
15	【未来について考えよう】 ・現在の世界が抱える様々な課題を確認し、30年後の理想とする自分、故郷、世界について願いを共有する。	ワークシート

成　果	・アフリカへの関心が高まり、ｴﾁｵﾋﾟｱの文化や生活についての認識が深まった。 ・アフリカに対してもつ負のイメージ(危険など)を変えることができた。また、貧困＝不幸という単純な考えを払拭することができた生徒もいる。 ・国際協力活動についての理解が深まり、関心が高まった。
課　題	学習を通して高まった世界の国々への興味や国際協力活動に対する関心を、さらに高めるために、今後も継続的な働きかけが必要である。また、世界が抱える課題を解決するために、日常生活でできることを生徒とともに考え、実践したい。

［授業実践の詳細］

1-4 時限目「共通点・相違点から想像しよう　エチオピアのくらし」

1　子どもの活動の流れ

この時限のねらい

子どもの権利条約について学ぶことにより、人権についての認識を深め、人権意識を高める。また、エチオピアの子どもたちの考え方や環境、生活に興味・関心を育てる。

①「権利の熱気球」の活動の流れについて理解する。（自分の乗っている気球が下降し始めたので、持っている荷物＝権利を示すカードを１つずつ捨てていかなければならない。）
②権利を示すカード10枚の中から，１番に捨てるカードを選び、その理由をペアで共有した後、全体でも共有する。
③同じように捨てる権利（下位）からランキングをする。
④すべての権利を捨てたが、どうしても捨てたくなかった権利と生きるためなら捨ててもよい権利との境界線を引く。
⑤境界線を引いた理由について、グループの中で発表する。
⑥「権利の熱気球」の活動についての感想を書く。
⑦子どもの権利条約成立までの歴史や子どもの権利の基本理念について知る。
⑧「権利の熱気球」のカードに示されていた権利が、自分や世界の子どもたちに保障されているかについて考え、班で話し合う。
⑨アフリカの知っている国名とアフリカ大陸の地図を書く。→全体で共有
⑩エチオピア、バルタ小学校の子どもたちが「権利の熱気球」をしている写真を見る。
⑪グループになり、自分のクラスの「権利の熱気球」の結果とバルタ小学校の結果とを比較して、同じ点と相違点についてまとめる。→全体で共有
⑫ランキング結果の相違点や同じ点から、バルタ小学校の子どもたちの生活の状況や考えを予想し、グループで話し合う。→皆で共有
⑬バルタ小学校の校舎や教室の写真、生徒たちがダンスをしている映像などを見る。
⑭バルタ小学校の子どもたちや学校の印象について書く。

2　子どもの活動の成果・反応

◇「権利の熱気球」のランキングを比較して気づいたこと。

・共通点、類似点＝「生きる権利」が1位 ／ 「大切に育てられる権利」「医療を受ける権利」が上位
・相違点＝エチオピアは「教育を受ける権利」が上位 ／ エチオピアは「戦争に連れて行かれない権利」が下位 ／ エチオピアは「働かされない権利」が下位 ／ 「休息したり遊んだりする権利」がエチオピアの子どもたちはだいたい下位にしていたけど、僕たちの班は、ほとんどの人が上位にしていた。

◇ランキングの違いから、バルタ小学校の子どもたちの考え方や生活について考えたこと。

＜教育について＞
・学校が遠かったり、教育を受ける場が少なかったりするため、もっと教育を受けたいと思っている。
・お金がなくて、教育が受けられないのかもしれない。
・勉強をしなかったら働くこともできないから、自分のやりたいこと（夢）を叶えるためには教育が必要だと思っている。

＜戦争について＞
・戦争を見たことがないし、戦争のことを知らないから、戦争を身近に感じていない。
・日本に住む私たちは「戦争はだめ。怖い。」と思っているが、エチオピアではそう思っていない。

＜自由・平等の権利について＞
・アフリカは黒人が多く、そのために昔、差別されたことを覚えているから、「自由・平等の権利」が僕たちより上位にきている。
・あまり自由に生きることができていないので「自由・平等の権利」がより上位にある。

＜その他＞
・エチオピアでは情報を得る手段が少なく、情報を得たいと感じている。
・自分たちはゲーム機など遊ぶ道具がたくさんあるけど、エチオピアには少なく、そのために遊ぶ時間も少ない。だから、「休息する・遊ぶ権利」が私たちより下位にある。

◇生徒の感想には、次のようなものがあった。

・みんな明るそうで、発展途上国とは思えないし、写真の顔を見たとき「楽しそうだな」と思った。特に、授業を受けている時は、すごくうれしそうな表情だった。改めて、勉強ができる嬉しさ、楽しさ、大事さを感じた。
・平和ではあると思うけど、私たちみたいな幸せな生活はできていないと思った。勝手な思い込みかもしれないけど、教育を受ける権利が上位にきているのは、バルタ小学校の生徒たちは自分の将来の夢がしっかり決まっているからかもしれないと思った。自分の生活を見直すと、エチオピアの子どもたちと比べると、私はまだまだだと思った。私も、自分の未来を考えて勉強したい。

◇同じ活動をした結果を分析することにより、地理的にも意識的にも遠い国エチオピアを身近に感じながら学習することができていた。そのため、エチオピアについて知っている情報は非常に少ないにも関わらず、バルタ小学校の子どもたちの考えの背景にある生活の状況や環境についてよく考えていた。
◇厳しい教育環境について授業の最後に提示をしたが、生徒たちは、写真の中のバルタ小学校の子どもたちの生き生きとした表情をとらえ、その子どもたちに対する印象は肯定的のものがほとんどだった。

3　使用した教材

＜教材１＞ 「権利の熱気球」に使用するカードとワークシート

（カードに記した権利の項目）
生きる権利／教育を受ける権利／名前や国籍をもつ権利／治療を受ける権利／自由と平等の権利／兵士として戦場に連れて行かれない権利／強制的に労働させられない権利／休息をとる・遊ぶ権利／情報を得る権利／表現の自由

＜教材2＞　エチオピア、バルタ小学校の生徒が行った「権利の熱気球」の個々のシート、および全体を集計したもの（割愛）
＜教材3＞　「子どもの権利条約カードブック」から抜粋した資料（割愛）
＜教材4＞　バルタ小学校の写真、同小学校の生徒たちの写真および動画（スライド抜粋）

（歓迎のダンス）

（「権利の熱気球」をする生徒）

（教室）

5-6　時限目「エチオピアの文化や自然、暮らしを知ろう」

1　子どもの活動の流れ

この時限のねらい
写真や資料から、ｴﾁｵﾋﾟｱの文化や自然などについて知る。また、人々の暮らしについての理解を深める。

①クイズに答えながら、エチオピアの基本情報を得たり、自然、文化などについて知ったりする。
②写真を見て、何をしている場面かなどをグループ内で話し合い発表し合う。（フォトランゲージ）
・「靴磨きをする少年」「隣接する町へと歩いて移動する人々」「水汲みをする少年たち」「薪を運ぶ人々」「コーヒーセレモニーでコーヒーをいれる人」の写真から、人々が何をしているかを考える。
・「原生林のコーヒーの木」「伝統的な養蜂箱」の写真から、それらが何かを考える。
③活動の感想とエチオピアについてさらに知りたいと思ったことを書く。

2　子どもの活動の成果・反応

◇導入をクイズ形式で行うことにより、生徒たちは意欲的に活動に取り組み、エチオピアの生活や文化について理解することができていた。次のような感想があった。

・エチオピアでは私たちとは全く違う暮らし方をしていると感じた。今まで電気や水道がきていなければ絶対に楽しく暮らしていけないと思っていたが，写真を見ていると子どもたちの幸せそうな表情が見られた気がする。びっくりしたのは，コーヒーで歓迎をしてくれることだった。日本にも全国みんな共通してできるおもてなしがあればいいなと思った。
・エチオピアは、コーヒーづくりが盛んだと分かった。また、はちみつも生産していた。子どもが靴磨きをしているのは驚いたが、子どもが一生懸命に働いているのはすごいと思った。また、水汲みに行っている少年たちの写真を見て、エチオピアには水道がないから、自分たちで行動して水を手に入れなくてはならないのは、大変だと思った。水は貴重だと改めて感じた。

・エチオピアの国は十分に近代化されていないが、人々は心優しいのだと思った。最初は、内戦などをしている国が周辺にあるので、危ない地域だと思っていたが、全く逆で穏やかな国だと感じた。もっと支援をして、環境を整え、子どもたちが安心して学校に通えるようになればいいと思う。エチオピアの珍しい動物も印象的だった。

3　使用した教材

＜教材5＞エチオピアについてのクイズ（スライドから抜粋）

「子どもたちは何と声をかけてきたでしょうか？」

左写真のみ提示して「この動物は何でしょう？」

＜教材6＞フォトランゲージで使用した写真より抜粋

コーヒーセレモニーのため
コーヒー豆を挽いている人

徒歩で移動する人々

伝統的養蜂箱

7-8　時限目「エチオピアの人々の暮らしの課題を考えよう」

1　子どもの活動の流れ

①「世界子供白書 2014」のエチオピアなどの基本データ（出生時の平均余命、成人の識字率など）や「地球家族」から写真家が訪問したエチオピアの家族を紹介する文などを読む。
また、前時にもったエチオピアの暮らしについての疑問などについても情報を得る。

②エチオピアや世界の森林が減少していることを示す写真や資料を見て、世界が抱えている課題の一つである森林減少とその影響について理解する。

この時限のねらい

国際協力活動についてのイメージを膨らませるとともに、よりよい世界にするために国際協力活動が必要であるという認識を育てる。

③これまでの学習から知ったことを考え合わせ、エチオピアの人々の生活をよりよくするために、解決したい課題を考える。

④課題を解決することにより実現したい未来像を想像し、そのような結果を得るために、具体的にどのような取り組みが必要かを話し合う。班でプロジェクトを考える。

⑤エチオピアやモンゴルで実施された（されている）いくつかのJICAのプロジェクトについて概要を知る。

2　子どもの活動の成果・反応

◇自分たちでプロジェクトを考えることを通して、その難しさやおもしろさを感じながら、よりよい国際協力活動について認識を深めることができた。

◇解決したい課題として、すべてのグループが教育の問題をあげており、これまでの学習から教育の意義を理解していると感じられた。

◇生徒が考えた活動の中には、日本人や自分自身の価値観をよいものとして押し付けようとするものがあり、相手の文化や生活様式を尊重しながら行うことができる支援を考える難しさが感じられた。

3　使用した教材

＜教材7＞基本データ:「世界子供白書 2014 統計編」からデータを示した資料（抜粋）

	５歳未満児死亡率(千人中)	年間出生数	出生時の平均余命	成人の識字率	初等教育就学率
エチオピア	６８人＜40 位＞	3,084,000 人	６３才	３９％	８７％
日本	３人＜185 位＞	1,071,000 人	８３才		１００％
モンゴル	２８人＜78 位＞	64,000 人	６７才	９７％	９９％
シエラレオネ	１８２人＜１位＞	222,000 人	４５歳	４３％	

＜教材8＞「地球家族」から抜粋した資料（割愛）

＜教材9＞エチオピアで活動する青年海外協力隊員の方が書いたエチオピアの暮らしを紹介する文（割愛）

＜教材10＞世界的な森林減少を示すスライド（割愛）

＜教材11＞JICAの国際協力活動を紹介するスライド（抜粋）

無償資金協力事業で架け替えられたアワシュ橋

ベレテゲラ参加型森林管理計画プロジェクトに関連して原生林（左上）コーヒーの実（右上）

9-10 時限目「JICAについて知ろう」

この時限のねらい

国際協力活動についての認識を深めるとともに、国際協力活動への関心を高める。

1 子どもの活動の流れ

①JICAやODAを紹介するDVDを視聴する。
②エチオピアで行われている国際協力活動のいくつかを知る。
③エチオピアについての学習を通してもった疑問に関する情報を教えていただく。
③青年海外協力隊OBの内山光晴さんから、セネガルでの活動の体験談を聞く。

2 子どもの活動の成果・反応

◇国際協力がどのような成果を生み出しているのか、また、日本も戦後支援をされていたことを知り、国際協力活動の必要性や意義を感じることができていた。
◇青年海外協力隊の方から、活動の内容や現地でご自身が感じたことなどについて具体的な話を聞くことにより、国際協力や世界の国々に対する興味・関心が高まった。次のような感想があった。

・セネガルでは、お米が家にない時に他の家に行ってご飯を食べさせてもらうという話を聞いて、人々の心の豊かさがあると思いました。JICA についての DVD では、日本が第二次世界大戦後、新幹線を作るために外国から支援を受けていたことを初めて知りました。また、アフリカで行われている国際協力活動の一つに、住民がもっている拳銃と外国から送られてきた自転車を交換するプロジェクトがあるという話を聞いて、とてもいいアイデアだと思いました。そして、世界のすべての国が戦争や争いをせず、平和で家族とともに普通の生活ができる世界になってほしいと思いました。
・JICA では、無償資金協力で交通網を整備したり、現地の人々とともに村おこしをしたりするなど、さまざまな活動をしていることを知りました。私は、募金や税金が何に役立っているのかはっきり分かっていませんでした。ですから、内山さんの話で、JICA が発展途上国のために行う活動に税金が使われていることを知ってうれしく思いました。日本も戦後、他国から援助してもらい、今の日本があるとビデオでも言っていました。だから、これから日本がその恩返しをしていけたらいいと思います。私も将来こんな仕事に就いてみたいと思いました。

3 使用した教材

＜教材12＞JICAやODAについて紹介するDVD
＜教材13＞セネガルや内山さんが行った活動などを紹介するスライド

■ 全体を通して

1 授業の様子

＜写真1＞フォトランゲージで写真を見る

＜写真2＞アフリカと関係のあるものを選ぶ活動をしている

＜写真3＞青年海外協力隊OBの方の話を聞く

＜写真4＞自分たちが考えたプロジェクトを発表する

2 参考文献・資料

1）「開発教育・国際理解教育アクションプラン研究会 『教室から地球へ』 2006 年 独立行政法人国際協力機構中部国際センター」

2）「JICA教材作成実行委員会 『国際理解教育実践資料集』 2013 年 独立行政法人国際協力機構地球ひろば」

3）「マテリアルワールド・プロジェクト 『地球家族 世界 30 か国のふつうの暮らし』 1994 年 TOTO 出版」

4）「（公財）日本ユニセフ協会 『子どもの権利条約カードブック』 2015 年」

5）「松見靖子 『森は消えてしまうのか？エチオピア最後の原生林保全に挑んだ人々の記録』 2015 年 佐伯印刷出版事業部」

6）「UNICEF 『世界子供白書 2014 統計編 だれもが大切な“ひとり”』 2014 年」

7）「JICA 『JICA's World No.41』 2012 年」

8）「JICA 『JICA's World No.54』 2013 年」

9） 環境省ホームページ 『エチオピアの天然林を住民参加と認証コーヒーで守る』

10） UCC上島コーヒーホームページ 『エチオピア ベレテ・ゲラ森林保全プロジェクト』